

6. 貨幣市場

マクロ経済で習うこと

中心はGDP

(支出の内訳)

$GDP = 消費 + 住宅投資 + 設備投資 + 在庫投資 + 公共投資 + 政府支出 + 輸出 - 輸入$

(時系列)

$GDP = 経済成長 + 景気循環$

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

貨幣

マルクスはどこかで、商品世界のなかにおける貨幣の存在は、動物世界の中でライオンやトラやその他すべての現実の動物たちと並んで「動物」なるものが闊歩しているように奇妙なものだと書いている。(岩井克人『ヴェニス商人の資本論』)

物々交換から貨幣へ

- ・リンゴと魚
- ・リンゴを売りたいと魚が欲しい人と魚を売りたいとリンゴが欲しい人がいないと成り立たない。(欲望の二重一致)

まず誰もが買ってもらえるもの(米、塩)に替える

- ・リンゴを売って米を買う→米を売って魚を買う。

貨幣の形

石・米・塩→金、銀→紙、電子マネー

貨幣の機能

① ()

誰でも受け取ることを拒否しない貨幣は、間接交換を可能にした。

② ()

さまざまな財やサービスの価値を数量的に比較可能にした。

③ ()

貨幣がいつでも誰でも受け取ってくれるため、交換の場を空間だけでなく時間にも広げた。

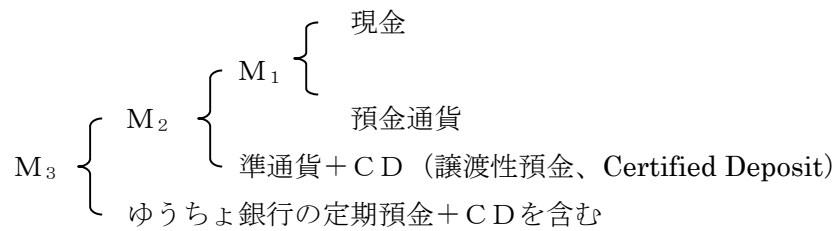
貨幣の定義

一般的な貨幣の定義 1万円札、500円玉など

経済学の貨幣の定義 ()

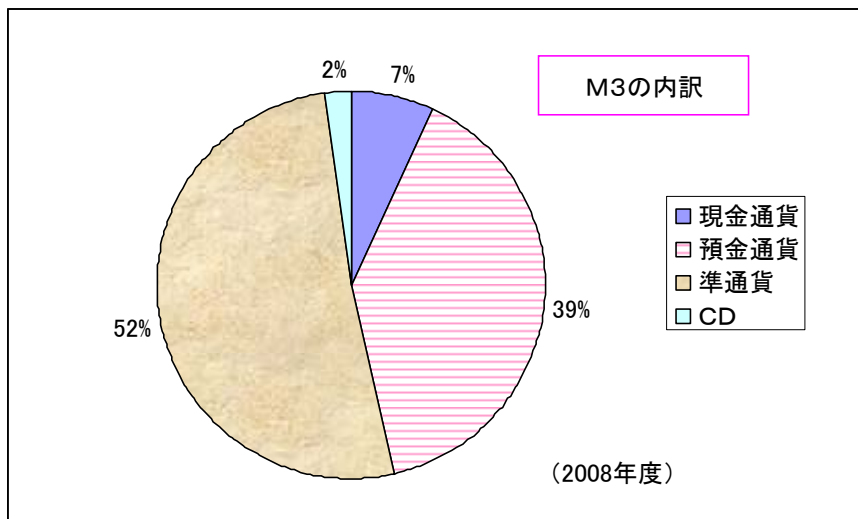
通貨とも呼ぶ。

マネーストック（貨幣供給量）の種類



預金通貨：当座預金、普通預金など

準通貨：定期余韻、外貨預金など



銀行のしくみ

利子

預金金利と貸し出し金利

預金金利 りそな普通預金 0.001%

貸出金利 銀行→13.375% (消費者金融→27.375%)

利子は「時間を買う」ものまたは「我慢料」

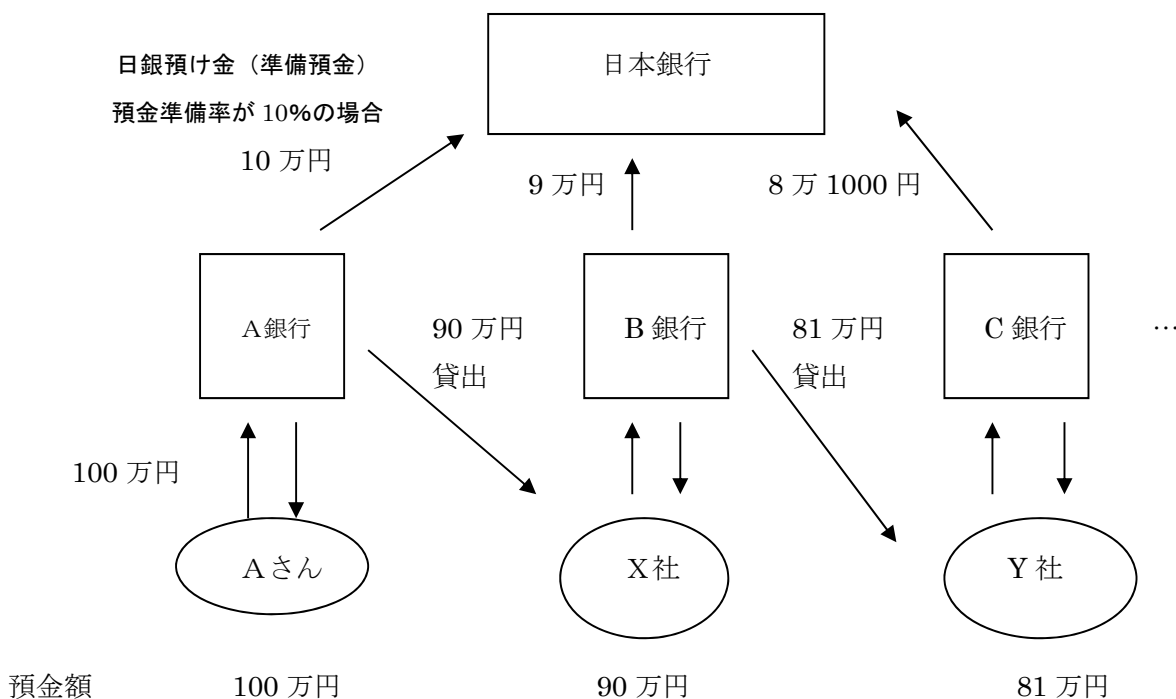
- ・ 買いたいものを買うのを我慢して貯金する→利子がつく
- ・ 1年後までに貯まる (はず) のお金を先取りして今買う

信用創造

預金は現金通貨のように流通する。

預金準備率=銀行が預かった預金のうち、日本銀行に預けなければならない比率。

預金準備率が 10%の時、銀行が預金を 1000 万円預かったとしたら、100 万円は日本銀行に預ける必要がある。



全部あわせると、100+90+81+...=約 1000 万円になる

信用創造 銀行の信用によって、預金がどんどん増えていくこと。

信用乗数 本源的預金は何倍増えるかを表す。信用乗数は預金準備率によって決まり、公比 r (パーセント表示ではなく、比率) の等比級数の和で表され、 $1/r$ となる。

$$C (\text{信用乗数}) = D (\text{預金}) / \times D_0 (\text{本源的預金}) = 1 / r (\text{預金準備率})$$

マネーサプライとハイパワードマネー

金融政策の最終目標は物価や景気を安定させることだが、その中間目標として（ ）がある。中央銀行は（ ）を直接動かすことはできないが、日銀の操作できるお金である（ ）を増減することで間接的に操作できる。

（ ）がハンドルで、（ ）がタイヤのようなもの。ハンドルを切ると、どのくらい車が曲がるのかを示すのが貨幣乗数。

<マネーサプライとハイパワードマネー>

- ・マネーサプライは市中に流れている現金と預金

$$\text{マネーサプライ} = \text{現金 (C : cash)} + \text{預金 (D : deposit)}$$

- ・ハイパワードマネー（マネタリー・ベース、ベースマネーとも呼ぶ）は日本銀行が自由に動かせるお金（外部貨幣）

$$\text{ハイパワードマネー} = \text{現金 (C : cash)} + \text{準備預金 (R : reserve)}$$

準備預金（＝銀行準備、支払い準備金）＝あらかじめ銀行預金の一定の割合（法定準備率）を日銀に預けさせること。

貨幣乗数

ハイパワードマネーが何倍マネーサプライを増やすか

$$C_M (\text{貨幣乗数}) = M (\text{マネーサプライ}) / H (\text{ハイパワードマネー})$$

$$C_M = \frac{M}{H} = \frac{C+D}{C+R} = \frac{\frac{C}{D}+1}{\frac{C}{D}+\frac{R}{D}}$$

貨幣乗数は R/D （支払い準備・預金比率）と C/D （現金・預金比率）によって変化する。

マネーサプライとGDPの関係

貨幣数量式（フィッシャーの交換方程式）

$$MV = PT$$

M 貨幣量（世の中にあるお金の量）

v 貨幣の流通速度

P 物価

T 取引回数

リンゴの値段が 100 円、取引回数が 30 回だと 3000 円分お金が動いたことになる。

貨幣量が 1500 円だとすると

貨幣の流通速度は？

ケンブリッジ方程式（GDPとマネーサプライの関係を表す）

フィッシャーの交換方程式の v を右辺に持ってくる

$$M = (1/V) PT$$

$1/V = k$ とすると、

$$M = k PT \quad (\text{ケンブリッジ方程式、} k \text{ を マーシャルの } k \text{ と呼ぶ})$$

GDP が貨幣の取引量に比例すると考えると、

$$M = k \times GDP$$

M をマネーサプライと考えると、GDP とマネーサプライが比例する式になる。

$$GDP = M / k$$

となるので、マネーサプライを規則正しく増加させていけば、GDP のそれに比例して増加する。(マネタリズムの考え方)

公式

名前	公式	
貨幣数量式 (フィッシャーの交換方程式)	$MV = PT$	V を定義するための式。
ケンブリッジ方程式	$M = k \times GDP$	貨幣量と GDP の間には比例的な関係がある。
マネーサプライ	$M = C + D$	世の中に流通しているお金
ハイパワードマネー (外部貨幣)	$H = C + R$	日本銀行が管理できるお金
信用乗数	$D = c \times D_0$ $c = 1 / r$ (預金準備率)	もともとの預金 (本源的預金) が何倍の預金を生むか
貨幣乗数	$M / H = (C + D) / (C + R)$	ハイパワードマネーがどれだけマネーサプライを生むか